

大桑村母子保健計画

(令和2年度～令和6年度)

大 桑 村

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
(1) 策定の趣旨	1
(2) 計画の期間	1
(3) 基本目標	1
第2章 村の現状と課題	2
(1) 村の概況	2
(2) 母子保健をめぐる現状	2
第3章 目標と施策の推進	9
(1) 思春期のこころとからだの健やかな成長を支援	9
(2) 安心・安全に周産期を過ごすことができる環境づくり	10
(3) 子どもたちが健やかに成長・発達する支援	10
(4) 親子がいきいきとした生活が送れる育児支援	12

第1章 計画策定にあたって

(1) 策定の趣旨

人生80年代を迎え、子どもをとりまく近年の状況は、少子化や核家族化、女性の社会進出の増加、子育て環境や生活習慣の多様化など複雑多岐になっています。また、母子を取り巻く環境は、公衆衛生施策や医療費水準の向上により、乳児死亡率の世界一水準に達した一方、思春期における健康問題や親子のこころの問題などの様々な課題が出てきています。

誰もが安心して子どもを産み育てるために、母子保健の充実が求められていることから、妊娠・出産期から学童・思春期に至るまで、訪問事業や相談事業等を始めとする各種母子保健事業の充実を図り、健やかな笑顔あふれるやさしい村づくりをめざして、この計画を策定します。

(2) 計画の期間

この計画の期間は、基本的に令和2年度を初年度とし、令和6年度を最終年とします。

なお、適時評価を行い、必要に応じて計画内容の見直しを行いながら推進します。

(3) 基本目標

安心して子育てができるために・・・取り組むべき4つの施策

- ・ 思春期のこころとからだの健やかな成長を支援
- ・ 安心・安全に周産期を過ごすことができる環境づくり
- ・ 子どもたちが健やかに成長・発達する支援
- ・ 親子がいきいきとした生活を送れる育児支援

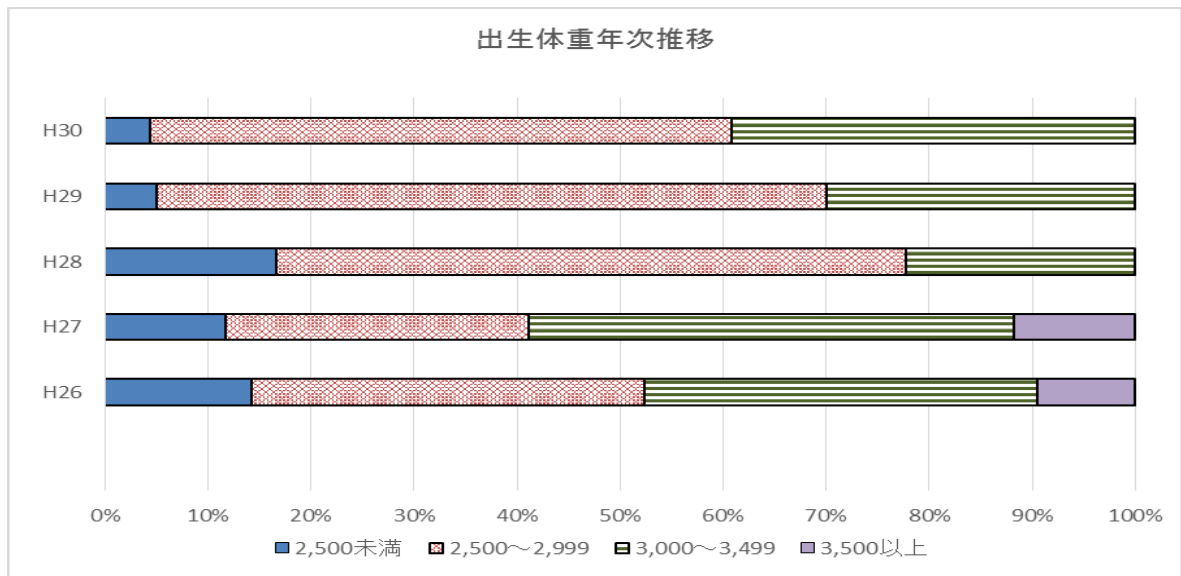
第2章 村の現状と課題

(1) 村の概況

村の概況については、健康増進栄養計画を参照してください。

(2) 母子保健をめぐる現状と課題

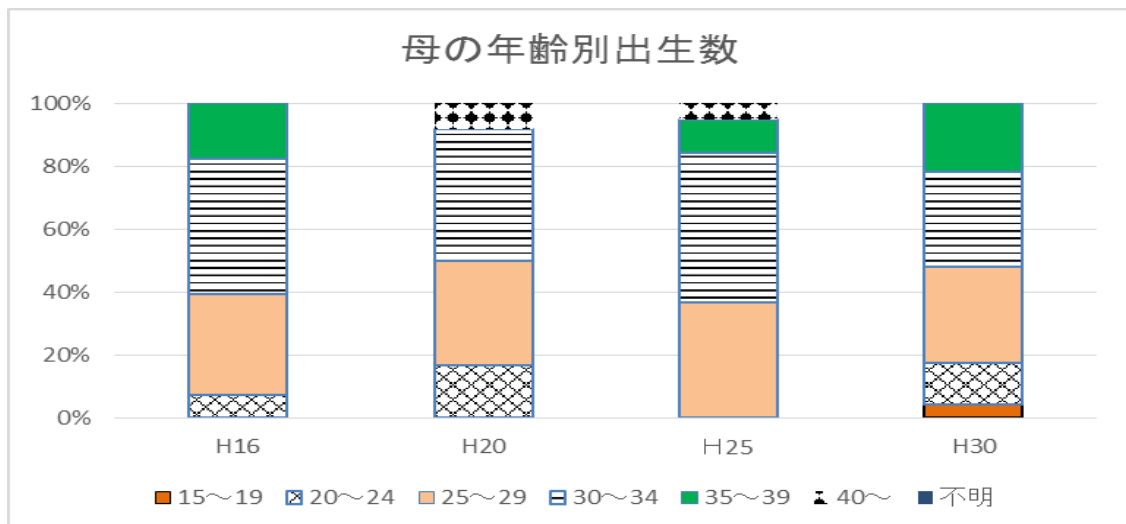
① 出生

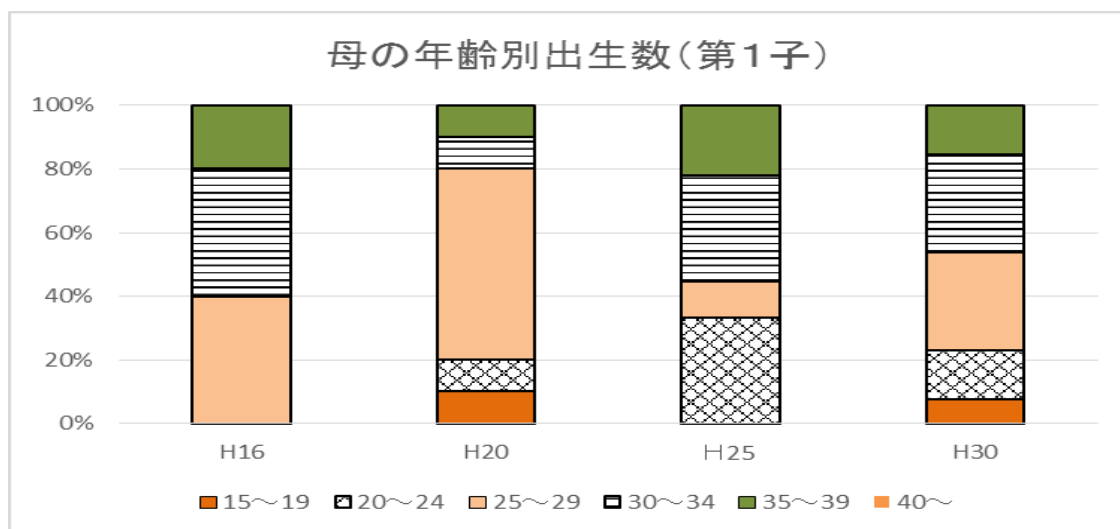


(新生児台帳より)

出生体重別の割合を見ると、2500g～2900gが半数を占めています。低出生体重児は減少傾向にあります。

② 妊娠・出産





(新生児台帳より)

母の年齢別出生数を経年でみると、H16年から大きな変化は見られません。第1子に限った母の年齢を見ると、一時期30歳以降の出産が増えましたが、現在は20歳代での出産と約半数になっています。

③ 死亡

(人)

	乳児死亡	新生児死亡	周産期死亡
平成26年	0	0	0
平成27年	0	0	0
平成28年	0	0	0
木曾郡内 (平成26年)	0	0	0

※長野県衛生年報 H26～28年版引用

長野県は、乳幼児死亡および新生児死亡が全国の中で低い状況です。当村でも、同様の傾向にあります。

④ 子どもの生活状況

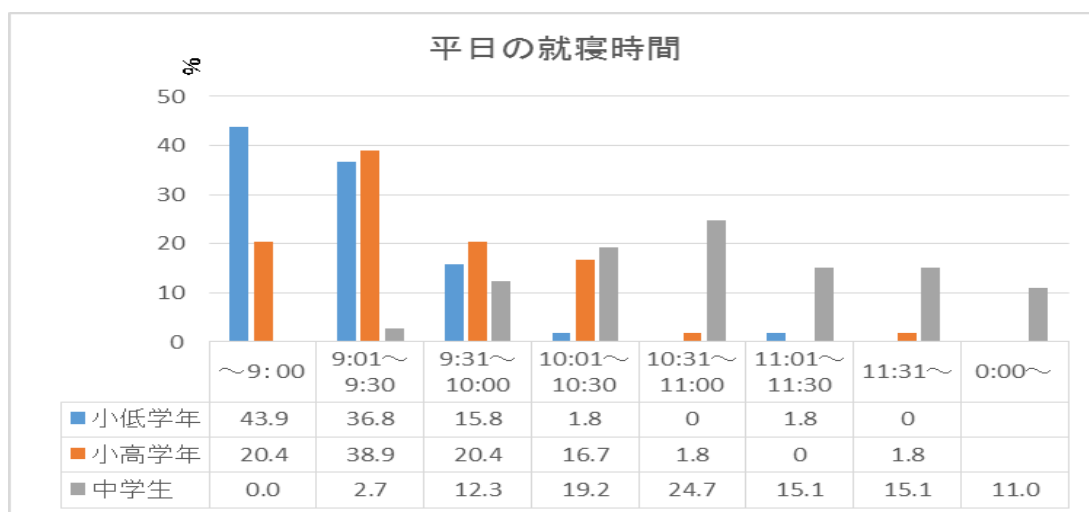
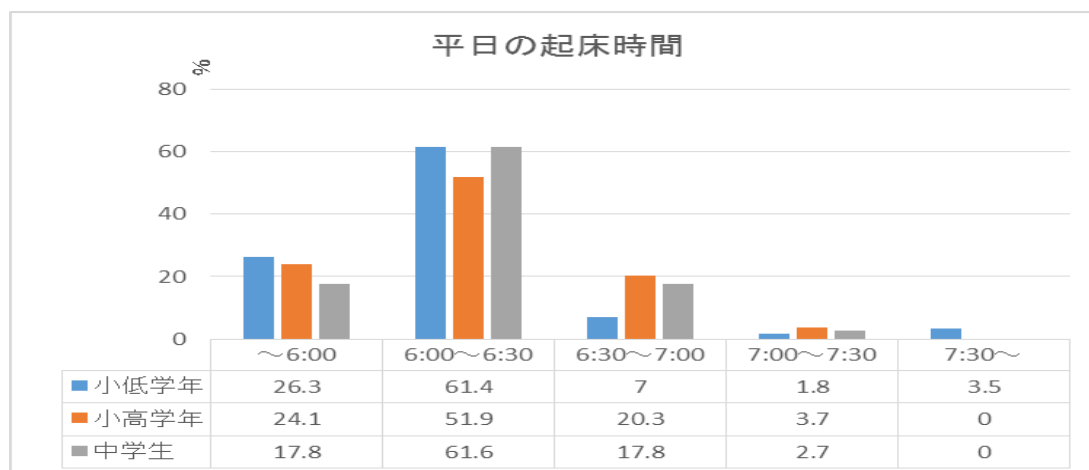
○生活リズム

生活リズムを整えることは子どもの心身の健やかな育ちのために必要不可欠なものです。幼少期の必要睡眠時間は、昼寝を含めて10～12時間と言われており、遅くとも21時前に眠れる工夫ができるように早寝早起きの大切さを伝えていく必要があります。また、小・中学生になっても、睡眠時間が確保されていないと、「朝体がだるいと感じる」「やる気が起きない」「集中できない」等心身への影響もでてくるため、心身の健全な成長発達のために早寝早起きの

リズムを作ることは大切です。

	7時以降の起床	21時以降の就寝	平均睡眠時間
1歳6ヶ月児	1人 (5.6%)	0人 (0%)	10時間
3歳児	1人 (5.9%)	4人 (33.0%)	9時間

(平成30年度 幼児健診より)



(令和元年度小中生活習慣アンケートより)

幼児の起床時間を見ると、7時以降の起床は数名で、大多数が7時前に起床しています。一方就寝時間は、1歳6ヶ月児から3歳児にかけて21時以降に眠る子どもが急増しています。

小中学生も起床時間は、大多数が7時前になっています。一方、就寝時間は学年が上がるほど遅くなり、中学生では23時以降の就寝が4割となっています。

○歯科保健

乳幼児への歯科健診は、幼児健診、保育園にて歯科医師による健診を実施しています。また歯科指導については、幼児健診、お誕生相談、2歳半虫歯予防教室などで歯科衛生士による口腔ケア指導を実施しています。

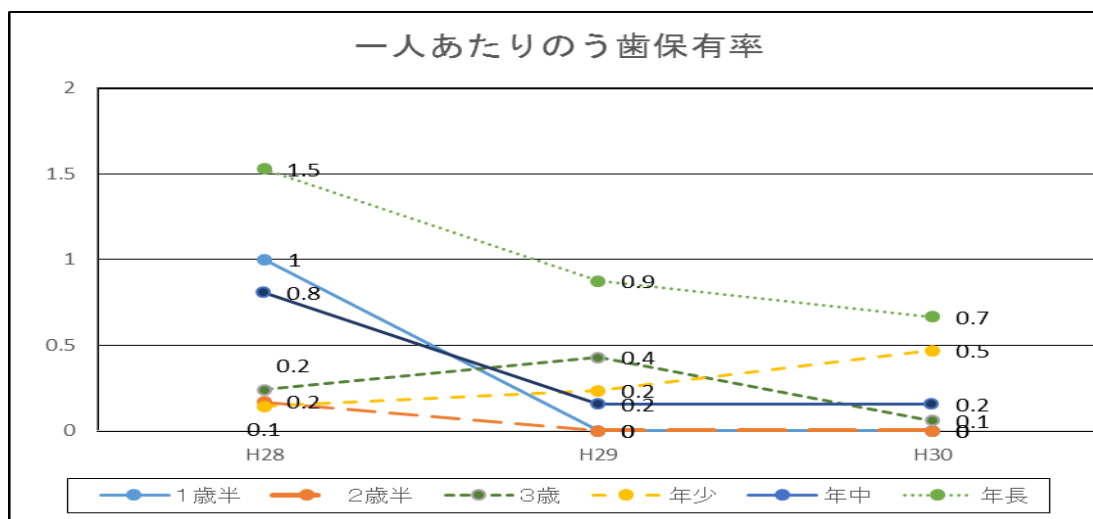
	う歯保有者 数・率 等		
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
1 歳 6 ヶ月 歯科健診 (保有者率)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
2 歳半 虫歯予防教室 (保有者率)	0 (0%)	1 (6.3%)	1 (9.1%)
3 歳 歯科健診 (保有者率)	1 (6%)	3 (14%)	1 (6%)

(幼児健診、虫歯予防教室)

	親の仕上げみがき	平均実施回数	間食の時間を決めて 食べている
1 歳 6 ヶ月児	17 人 (100%)	1.7 回	14 人 (82.4%)
3 歳児	17 人 (100%)	1.6 回	16 人 (94.1%)

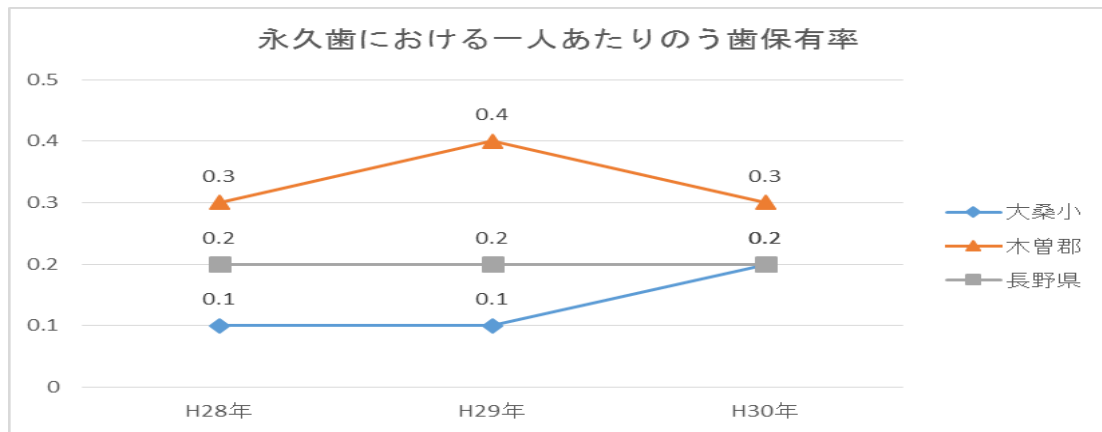
(平成 30 年度 幼児健診)

○歯科健診での一人あたりのう歯保有率



(幼児健診、保育園歯科健診)

親の仕上げみがきは100%の実施率、間食の時間を決めて食べている児も前計画時よりも増加しています。



(小中合同学校保健委員会)

小学校では全体的に「う歯なし」の児童が多く、またDMF T (1人あたりのう歯本数) の数値も、平成 30 年度は上昇していますが、郡、県と比較し低く推移しています。

⑤ 予防接種状況

乳幼児の定期接種は、医療機関と委託契約を結び、個別接種を実施しています。今後も接種状況の確認、未接種者への再接種勧奨を行い、きめ細やかな支援をしていきます。

ワクチン名	接種者数 等		
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
4 種混合	62 95.4	69 86.3	78 86.7
ジフテリア・破傷風 (DT)	27 100	31 100	26 96.3
BCG	16 93.8	16 94.1	20 100
日本脳炎 1 期	45 100	40 100	40 100
2 期	63 90.0	57 96.6	55 94.8
ヒブ	56 93.3	72 86.7	74 86.0
肺炎球菌	54 93.1	73 86.9	72 85.7
B 型肝炎	26 100	54 90.0	63 95.5
MR 1 期	16 94.1	18 90.0	14 87.5
2 期	18 100	25 100	17 100
水痘	41 93.2	36 92.3	32 84.2

上段人数、下段接種率 (%)

⑥ 母子保健事業の状況

項 目	参加者（利用者） 数 等		
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
母子手帳発行状況 (妊婦初回面接回数)	22	20	18
母親学級 (延べ)	26	28	22
うち初産	9	9	12
新生児訪問 (助産師による訪問)	13	19	24
3ヶ月訪問 (保健師全戸訪問)	15	17	22
離乳食講習会	13	17	21
お誕生相談	15	16	12
乳児健康診査 (延べ)	41	60	55
受診率 (%)	100	100	100
幼児健康診査 (延べ)	47	33	38
受診率 (%)	100	100	100
2歳半虫歯予防教室	20	16	11
3歳児健康診査	18	22	17
受診率 (%)	100	100	100
ブックスタート※1	16	20	17
思春期体験事業 (赤ちゃんふれあい体験、 性教育講話)	年 3 回	年 3 回	年 3 回

子どもの成長に合わせ、健康診査、育児相談などを実施しており、その対象者のほとんどが参加しています。今後も、身近な支援の場として、充実した健診・相談事業が提供できるようにします。

ライフスタイルの多様化、核家族の増加など子育てを取り巻く環境が変化していることから、乳幼児に接したことがないまま妊娠出産を迎える夫婦が多く、子どものいる生活に馴染めない中で家庭を築いていく家族が少なくありません。そのため、妊娠期から子どもが18歳になるまで、切れ目なく支援が受けられるよ

※1ブックスタート

絵本を介して親子がこころ触れ合うひとときをもつきっかけとして、10ヶ月になるお子さんに村から絵本をプレゼントする事業。

子育て世代包括支援センター^{※2}機能を整備していきます。子育て世代包括支援センターを中心に、母と子の心身の健康に関する知識の普及や啓発活動、訪問活動、相談活動を充実させ、住民一人一人が自ら健康の維持増進行動がとれるように支援していく必要があります。

第3章 目標と施策の推進

(1) 思春期のこころとからだの健やかな成長を支援

ライフサイクルの中で、思春期は、心身発達の目覚ましい時期であるとともに、不安定になりやすい時期でもあります。次世代を担う人として、豊かな自己を創り上げる大切な時期である思春期に寄り添い、心身の健康に関する知識の普及や相談活動、不安の解消、自分を大切にできる力や自らの健康管理を維持する力を支援します。

目指す姿	取組みの現状(平成30年度)	目標
命の大切さを知り、自分・相手を大切にできる	ふれあい体験 年2回	継続
	思春期セミナー 年1回	継続
相談できる場所を知っている	SOSの出し方に関する教育 年1回	継続
生活リズムが整っている	7時以降の起床 ・小低学年：5.3% ・小高学年：3.7% ・中学生：2.7% 23時以降の就寝 ・小低学年：1.8% ・小高学年：1.8% ・中学生：41.2%	減少

※2 子育て世代包括支援センター

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供するための体制を構築するために、母子保健施策と子育て支援施策を一体的に提供するもの。

(2) 安心・安全に周産期を過ごすことができる環境づくり

少子化の中、乳幼児に接したことがないまま妊娠出産を迎える夫婦が多く、子どものいる生活に戸惑うことがあります。家族ぐるみで安心・安全な妊娠、出産のための環境づくりと切れ目ない支援を実施していきます。また、医療機関との連携を密にし、妊婦の孤立を防ぎ、不安の解消に努めます。

目指す姿	取組みの現状(平成 30 年度)	目標
周産期の不安の解消	母子手帳発行時の保健師による初回面接の実施 100%	維持
	母親学級(マタニティサロン) 3回	維持
	産婦健診・産後ケア	継続
周産期を健康に送る	母親学級参加者 (初産参加者 延べ 12 人)	維持
	妊婦健診費用の助成 14 回に加え、医師が必要と認める検査	継続
	妊婦・産後 1 年の福祉医療	継続
妊娠中の生活支援	不妊・不育症の助成	継続

(3) 子どもたちが健やかに成長・発達する支援

ライフスタイルの多様化、核家族の増加、女性の社会進出など子育てを取り巻く環境が変化していることから、育児支援もそれぞれに合った対応が必要です。子どもたちが、健やかに成長発達できるように、保護者が子どもの成長やその時期の発達を知り、毎日の生活の中で実践できるように正しい知識と情報を提供していきます。

親と子どもの交流の場を提供し、豊かな心の発育を促進するなど、村ぐるみの子育てや、子育て知識を得る機会をつくり、親子で健康の維持増進行動がとれるように支援していきます。

目指す姿	取組みの現状(平成 30 年度)	目標
村ぐるみの子育て支援	母親学級の延べ参加者 22 人	維持
	中学校ふれあい体験学習への参加 8 組	参加協力の維持
親が子どもの健康状況を知る	乳幼児健診の受診率 乳児健診 100% 幼児健診 100%	維持
	新生児聴覚検査費用の助成	継続
子育ての知識・技術がある	離乳食教室 100% お誕生相談 63.1% 2歳半虫歯予防教室 78.9%	参加率上昇
子育て情報の提供	母親学級や相談事業において、子育て支援事業の情報提供	医療・保健・子育ての一体的な情報提供
心豊かな子どもが増える	絵本のふれあいブックスタート～サードブックの取組み	維持
	図書館、保健センター、まめっこ図書館の利用	蔵書図書の充実、利用周知
生活リズムが整っている	7時以降の起床 ・1歳6ヶ月：5.6% ・3歳：5.9% 21時以降の就寝 ・1歳6ヶ月：0% ・3歳：33.0%	1歳6ヶ月、3歳健診聞き取り 7時以降の起床者減少 21時以降就寝の減少
感染症予防の取組み	定期予防接種の未接種者率 0%	100%
	こどもインフルエンザ予防接種全額助成	継続
	任意予防接種（おたふくかぜ）の周知・啓発、費用の助成	継続
う歯のない子どもを増やす	健康栄養増進計画 歯の健康編 参照	—————→

(4) 親子がいきいきとした生活を送れる育児支援

核家族化による子育て世代の孤立により、子育て中に不安や悩みを抱え生活する親がいます。不安や悩みを軽減し、いきいきとした生活を送りながら育児に取り組める支援が求められています。

親の不安や困りごとを相談し、子育てに自信をもって子どもと暮らすことができるよう、親の意見を聞き取る場を設け、関係機関や地域が一体となってより子育てしやすい環境を作り上げ、児童虐待の予防に向けた取り組みを推進し、関係機関との密な連携、育児支援体制の充実を図ります。

目指す姿	取り組みの現状（平 30 年度）	目標
不安や悩みを相談できる	保健師による全戸訪問 100%	継続維持
	乳幼児健診未受診者 0%	現状維持
子育て環境の整備	まめっこ利用者延べ 1424 組	まめっこ利用の向上
母親自身の健康管理ができる	育児ママ健康応援保育 ^{※3} 利用者 7人(8.5時間)	育児ママ健康応援保育 の利用者増加

※3 育児ママ健康応援保育

母親が各種健（検）診を受ける際の無料の託児。

大桑村母子保健計画

令和2年2月策定

<編集・発行>

大桑村福祉健康課保健係

〒399-5503 長野県木曾郡大桑村大字長野 2778